

湖西市津波防災地域づくり推進計画 第1回意見交換会

～ 地域で安全な未来をつくる会 ～

開催報告

日時：令和5年5月28日(日)

10時00分～

場所：新居地域センター 3階ホール

<次第>

1. 開会
2. 挨拶
3. 講師紹介
4. 津波防災地域づくり推進計画・津波減災計画について
「湖西の災害リスク」
講師：原田賢治 静岡大学 防災総合センター 准教授
5. 意見交換
テーマ「地域における災害対策の状況を共有する」
6. 総括
7. 閉会

<意見交換会の様子>



<沿岸域説明会について>

※より多くの方々に正しく理解していただき、意見を把握するため、沿岸地域の住民を対象に、第1回意見交換会における説明内容や昨年度実施（R4.11）した地区ヒアリング結果（新居・白須賀地区）について説明と現状と課題に関する意見把握を全6回実施しました。

No	開催日	対象自治会※1	会場
1	6月6日（火）	・ 郷南・郷北自治会 ・ 内山自治会 ・ 新居中央自治会	新居地域センター
※2	6月8日（木）	・ ベイリーフ自治会 ・ 柏原自治会	
2	6月13日（火）	新居南自治会（港町、ひばりが丘、新居弁天）	
3	6月20日（火）	住吉自治会（住吉東、住吉西）	
4	6月22日（木）	橋本自治会（高師山、杣川、若磯、日ヶ崎）	
5	6月27日（火）	西浜名自治会（大倉戸、松山）	南部構造改善センター
6	6月29日（木）	白須賀第1・2・5区自治会	

※1：対象自治会以外に住んでいる方も参加可能

※2：大雨による高齢者等避難発令に伴い中止



<意見交換会・説明会における意見概要>

「逃げる」

- 事前の対策として、訓練の重要性を認識し、自宅での対策強化（家具固定・備蓄等）、町内での話し合い(施設使用方法等)が必要。
- 多様な避難者（要配慮者、子ども、観光客等）の避難行動を検討し、車避難ができないことにも留意する必要がある。
- 避難路の浸水、橋梁の被害、家屋倒壊など、避難経路の課題がある。
- 海方向への避難、避難施設の数、L2 津波対策など、津波避難場所に対する不安がある。
- 津波避難施設については、施設数増加を要望する意見があり、空白域が解消されても住民の視点では施設数が不十分との認識がある。
- 津波高に対して避難施設の高さが十分あるのか。
- 想定されている避難可能時間で津波到達までに本当に避難できるか不安。
- 防災行政無線の放送が聞こえないため、設置数を充実させてほしい。

「土地利用」

- 浸水区域内については避難によって命を守り、財産（文化財等）はあらかじめ移転させることで守ればよい。
- 市街地の浸水が不可避であれば、津波被害の及ばない地区で宅地開発を進め、住民の集団移転を図ればよい。
- 災害時に民間企業の工場の安全性が確保されているか不安。
- 避難施設・避難所が土砂災害や倒壊等に対して安全性が保たれているか、収容人数は足りているか不安。
- 国道一号線、トンネル、橋梁、バイパス橋梁が使用できず、交通ネットワークの寸断が不安。
- 津波避難の強化策として、民間企業と連携し、高い建物に避難できる体制を構築するのがよい。
- 浸水区域内の宅地開発や移住促進を規制すればよい。
- 国道一号線上の一部を避難場所にすればよい。

「守る」

- 防潮堤の現状の高さでは、津波を防げるか不安。
- 防潮堤の減災効果が認められるのであれば、財政的な課題を解決して整備をしてほしい。
- L2 に対応した防潮堤を整備しても、L2 以上の津波を防ぐことが困難なら、既存インフラの維持管理をしてほしい。
- 防潮堤の整備については、防風林が枯れ、砂浜が痩せている現状も考慮して検討してほしい。
- 防潮堤を整備することで周辺の自然への影響はないのか。将来の子どもたちに豊かな自然を残すことも考えてほしい。
- 防潮堤の必要性について、もう少し詳しく知りたい。

「その他」

- 急傾斜地の開発による想定外の土砂災害、被災後の具体的な再建方法が分からないので不安。
- 津波被害については、浸水区域外の人も含め、市全体で災害リスクに対する意識改革が必要。
- 高校生を対象とした防災教育が必要。
- 自主防災会や他市町の災害への取組み事例を知りたい。
- 市内の海拔表示に津波の高さを関連づけるのがよい。
- 住民の避難に対する意識向上が不可欠。自主防災会が主体となって防災情報を地域住民と共有し、共助の可能性を追求する必要がある。